公正・平等な選挙改革にとりくむプロジェクト（とりプロ）趣意書

わたしたちのプロジェクトは、２０１４年１１月より活動を続けてきました。公職選挙法の抜本改正を目指して、国会議員会館内で国会議員や市民とともに集会を開き、趣旨賛同議員をつのり、選挙無効の訴訟を支援し、志を同じくする有識者に協力を呼びかけてきました。

本日、選挙市民審議会発足にあたって、わたしたちは次のことを宣言いたします。

わたしたちは、わたしたちの国の権力が主権者であるわたしたちのものであることを確認します。主権者は平等です。それゆえにわたしたちは、主権者の意見の分布がそのまま代表者の意見の分布になる選挙制度を、求めます。それによってわたしたちが、公正なかたちで代表者を通じて権力を行使するためです。

わたしたちは、わたしたち自身の代表である国会議員が厳粛な信託に応えて誠実に職務を全うできるよう、両院制や議院内閣制が十全に機能しうる仕組みを求めます。

わたしたちは、必ずしも民意が反映されていない政治に、危惧を覚えています。政治不信と政治への無関心、その結果としての低投票率や無投票当選は、民主主義の根幹に関わる緊急課題です。

そもそも民主政治とは、リンカーンの演説にあるように、「人民の・人民による・人民のための政治」です。

選挙を変えれば政治が変わります。そのためにわたしたちは、自らの手で現行の公職選挙法を公正・平等なものに改正し、関連法整備を行います。そうすれば政治を主体的に担う主権者が増え、議会制民主主義が鍛えられるはずです。自らの力を信じて自らの主権を正しく行使し、政治に参与することができるはずです。「わたしたちは、わたしたちの・わたしたちによる・わたしたちのための選挙制度」を創り出します。

２０１５年１１月３０日
公正・平等な選挙改革にとりくむプロジェクト

（旧称　市民に選挙をとりもどすプロジェクト）